

家 庭

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 共通教科「家庭」の学習指導の課題

共通教科「家庭」の学習指導においては、「生きる力」の理念を具現化させるために、家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ、生活を主体的に営む能力と実践的な態度を育てること、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力を育てることなどを目指している。

文部科学省によれば、共通教科「家庭」の課題として、特に、次の5点が挙げられる。

- ① 指導の工夫
- ② 評価の工夫
- ③ 教育課程上の課題
- ④ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の充実と推進
- ⑤ 消費者教育の充実と推進



(2) 課題解決に向けた取組

これらの解決のために、①については、思考力・判断力・表現力の育成を図るための言語活動の充実、生徒の主体的・協働的な学習を支援する指導、効果的な実験・実習等による実践的・体験的な活動の工夫、②については、指導と評価の一体化をねらいとした指導計画と効率的な評価計画の作成、③については、適切な教育課程の編成とともに、特に家庭基礎については、年間指導計画を確認し、効果的な指導を心がけること、④については、問題解決学習重視の観点から、地域と連携しながら一層の充実を図ること、⑤については、社会から求められる課題への対応の観点から内容の充実を図ることが求められている。社会から求められる課題には、家庭を築くことの重要性、食育の推進、子育て理解や高齢者への肯定的な理解や支援する行動力の育成、日本の生活文化に関する教育の充実、防災教育等も含まれている。

また、高校生の発達段階を踏まえ、生活の主体者として意思決定し行動につなげる実践力を育成すること、小・中学校との題材の重複を考慮しながら、高校生の発達課題と生涯生活設計やキャリアプランニングなどに関わる内容を充実し、衣食住などの分野の科学的な理解を図るため、効果的・効率的な実験・実習を行い、家庭科技術検定及びICTを活用することが重要である。

平成26年度北海道高等学校学習状況等調査の結果から、「高校入学前に比べ学習意欲が高まった」の設問について、そう思う26.4%、どちらかといえばそう思う39.2%、どちらかといえばそう思わない22.3%、そう思わない12.1%であるため、家庭科においても学習指導の評価の改善を図り、生徒の学習意欲をより一層向上させる必要がある。

本手引では、学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実のために、「家庭基礎の年間指導計画及び評価計画」を示すとともに、課題解決能力の育成を目指し、「学校家庭クラブ活動」の指導方法と評価の具体例を示す。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

「確かな学力」とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものであり、「生きる力」の知的側面である。

(1)「家庭基礎」の年間指導計画及び評価計画

～学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実のために～

言語活動を取り入れた学習は生徒の思考力・判断力・表現力の育成に効果的であり、「確かな学力」を育む手立てとして有効である。次に言語活動を生かし、指導と評価の一体化を具現化した年間指導計画の例を示す。

- 1 科目の目標 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
- 2 履修学年・単位数 1 学年・2 単位
- 3 評価の観点と趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 年間指導計画と評価例

月	単 元	時数 (70)	学 習 活 動	評価の観点				評価基準・評価方法
				関	思	技	知	
4	オリエンテーション (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉	1 4	家庭基礎を学ぶにあたって ア 青年期の自立と家族・家庭 ★ワークシートや作文を基に、今までの自分を振り返り、自立の度合を確認することで自分をみつめる。 ★男女が協力して家庭を築くための具体的方法について、グループでまとめ、発表する。 ・各ライフステージごとの特徴と課題をまとめ、将来を見通した人生すごろくを作成する。	○	○			・今までの自分を振り返り、自立に向けて足りないものについて、考えを深めている。 ◇ワークシート、作文 ・男女共同参画社会について情報を収集し、発表できる。 ◇観察、発表、ワークシート ・ライフステージごとの課題と解決方法について情報を収集し、考えを深めている。 ◇観察、発表、ワークシート ・子どもの発達の特徴や、生み育てる親の役割について考えを深めている。 ◇定期考査、ワークシート ・子どもの保育に必要な触れ合い方や遊びについて理解を深め、そのために必要な技術を身に付けている。 ◇作品、定期考査 ・子どもと積極的に触れ合い行動の観察ができる。 ◇観察、実習ノート ・子どもの発達と保育を総合的に理解できる。
7		7	イ 子どもの発達と保育 ・乳幼児の心身の発達、親の役割と保育について学ぶ。 ・保育技術検定造形表現技術検定4級試験の学習を通じ、子どもとの関わり方について技術を身に付ける。 ★保育所実習		○		○	
		1	定期考査	○	○	○	○	
		4	ウ 高齢期の生活					
		3	エ 共生社会と福祉					

各項目において、言語活動を充実させた学習活動の例については、★で示す。

※表1 授業展開例参照

※表3「観点別学習状況の評価を生かした考査問題例」参照

●「努力を要する」と判断した生徒への手立て
◇子どもとコミュニケーションを取ることが難しい生徒には、今までの学習成果を生かした折り紙を披露し、子どもと会話をするきっかけをつかむようにアドバイスする。

月	単 元	時 数 (70)	学 習 活 動	評価の観点				評価規準・評価方法
				関	思	技	知	
8 月 3 日	(2)生活の自立及び消費と環境	16	ア 食事と健康 ・地産地消を取り上げ、食糧自給率の低下や外食への依存等、食の問題点について考えをまとめる。 ★衛生及び安全を考慮した地産地消料理をグループで考え、発表する。また、作品をコンクールに応募する。		○		○	・健康で安全な食生活について正しい判断ができる。 ◇ワークシート、作文 ・地産地消料理を開発し、発表できる。 ◇観察、レシピ、作品、発表
			1 定期考査 ★家庭科技術検定食物4級			○	○	・食に関する基礎的・基本的な知識と技術が身に付いている。 ◇検定問題、実技試験
			イ 被服管理と着装 ・制服を題材に、被服の機能や材料、被服の構成について理解する。	○			○	・制服に関心を持ち、被服の材料や構成について、基礎的・基本的な知識を理解している。 ◇観察、考査、ワークシート
			・制服ブレザーとシャツのボタン付け、スカート及びパンツの裾のまつり縫いをする。			○	○	・衣生活を管理する知識と技術が身に付いている。 ◇観察、作品、ワークシート
			★制服の表示からサイズの適切な選択、適切な洗濯方法について考え、日常着の洗濯と手入れの方法を実験し、グループでまとめる。		○	○	○	・品質表示を理解し、日常生活で着用する被服の適切な洗濯と手入れができる。 ◇観察、ワークシート
			ウ 住居と住環境					
			1 定期考査					
			エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 ★生活に必要な収入と支出をグループで考え、給与明細や求人票を基に一人暮らしをシミュレーションする。 ・消費生活センター講話	○	○	○		・生涯を見通した経済管理について、収支バランスとリスクを考えた計画の立案ができる。 ◇観察、ワークシート ・消費者問題の解決について考えを深め、正しい判断と意思決定の重要性について理解している。 ◇感想文、ワークシート
			・生活の中の契約と消費者信用、多重債務についてシミュレーションする。		○		○	・消費者問題とその対応方法及び消費者の権利について理解している。 ◇観察、ワークシート、定期考査
			★メールやインターネットのトラブルとその対応について情報を収集し、適切な判断ができるようグループでまとめる。	○	○	○		・情報化に伴う販売や契約方法について考えを深め、消費者として必要な技術を身に付けている。 ◇観察、ワークシート
	(3)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	5	オ ライフスタイルと環境					
			カ 生涯の生活設計					
			1 定期考査					
			★1年間の学習によって習得した知識と技術を生かし、「お店やさんごっこ」の品物として子どもが喜ぶ作品をグループごとに話し合う。作品は見学実習でお世話になった保育所へ完成後寄贈する。	○	○	○	○	・学校家庭クラブ活動について理解し、子どもにとって適切な作品について考え、学習の成果を踏まえ、計画的に制作できる。 ◇制作物、発表

※調理技術の評価として、定期考査に家庭科技術検定を取り入れる。評価方法は「家庭科技術検定評価基準」に準ずる。検定に申込みがある生徒のみ受検扱いとし、その他は評価のみ実施する。

●「努力を要する」と判断した生徒への手立て
◇前回のワークシートを参考に、制服の品質表示と、日常着用洗剤で制服を洗ってはいけない理由を考えさせる。家庭での洗濯に使用する柔軟剤や漂白剤の目的と適した素材、使用する理由も考えさせる。

※表2 授業展開例参照

●「努力を要する」と判断した生徒への手立て
◇携帯電話やスマートフォン、パソコンを使用しショッピングやゲームの際に困ったことはなかったか、また今までに届いた迷惑メールの例やその時の対処方法など、各自の経験を基に考えさせる。

【表1 各校で実践可能な家庭基礎における授業展開例】				
本時の主題	「子どもの生活と家族・家庭」（4時間目／5時間）			
本時の目標	保育技術検定造形表現技術検定4級への挑戦を通して、意欲的に子どもと触れ合う方法や、遊びを通じた関わりについて必要な思考力・判断力・表現力及び技能を身に付ける。			
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入	・本時の学習内容の確認	・保育技術検定造形表現技術検定4級試験について理解する。	【関心・意欲・態度】 ・検定に必要な準備ができている。 〈評価方法〉 ◇観察	・検定受検に際する注意事項を再確認する。
展開	・検定試験の実施	・保育技術検定造形表現技術検定4級試験の受験 （制限時間30分） ○鳥 ○動物 ○植物 ○自由作品	【思考・判断・表現】 ・制限時間内で作品の完成を目指し、色合等を考慮した作品の制作ができる。 〈評価方法〉 ◇観察、作品 【技能】 ・検定評価基準に準ずる。 〈評価方法〉 ◇観察、作品	・時間内に早く完成した生徒は、事後作業を行うよう指導する。 <保育技術検定評価基準> ・読図ができ、正確に折っている。 ・角や折り線がきれいである。 ・全体のできばえがよい。 ・作品が5個できている。 ・角や折り線がきれい、正確にできている。
まとめ	・事後作業	・完成した作品のバランスを考えて貼り付け、記名して提出する。	【思考・判断・表現】 ・児童文化財の子どもへの影響を考え、まとめられる。 〈評価方法〉 ◇発表内容	・作品の提出後は、片付けを徹底させる。

【保育技術検定作品】



平成27年度全国高等学校家庭クラブ研究発表大会で展示された作品である。

(2) 学校家庭クラブ活動の指導方法と評価～課題解決能力の育成のために

「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活デザイン」において、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の学習項目を設定している。学習内容は、「自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付けさせる」ことである。

生徒が、生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に実践する問題解決学習である。学習成果は日常生活に生かすことはもちろん、校内や地域での実践、ボランティア活動を通じた社会参画や勤労意識の啓発につなげることが可能である。

平成27年度全国高等学校家庭クラブ研究発表大会（北海道大会）において、ホームプロジェクトの部、学校家庭クラブ活動の部いずれも北海道代表が上位に入賞した。

全国高等学校家庭クラブ連盟ホームページ www.kateikurabu-renmei.jp

【表2 各校で実践可能な家庭基礎における授業展開例】				
本時の主題		学校家庭クラブ活動（1時間目／4時間）		
本時の目標		保育技術検定造形表現技術検定4級の学習を基に、お店やさんごっこで子どもが喜ぶような折り紙を用いた作品をグループで考えて表現し、発表する。		
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入 展 開 ま と め	・本時の学習内容の確認	・本時の授業内容を知る。	【関心・意欲・態度】 ・必要な準備ができています。 〈評価方法〉 ◇観察	
	・実習のお礼作品の検討	・今までの学習や保育所実習での観察を基に、子どもが興味・関心を持つ作品について考える。	【思考・判断・表現】 ・子どもが喜ぶ児童文化財について自分の意見をまとめることができる。 〈評価方法〉 ◇観察、ワークシート	・保育所実習での観察と子どもへの質問票※1を踏まえ、1時間で作成可能な児童文化財を検討し、子どもへの影響について考えさせる。
	・子どもが喜ぶ作品の発表	・グループごとに考えをまとめ、イラスト等で表現したものを発表する。 	【思考・判断・表現】 ・班員の意見をまとめ、自分の役割を考え、発表できる。 〈評価方法〉 ◇発表内容	・考えがまとまらないグループには、自らの通所・通園時にどのような作品があったか振り返らせ、事例を提示する。 ・グループ内で分担し、絵や実物例を取り入れた発表が可能なことを伝える。 
	・ワークシートへの記入	・クラスとしてどの作品を制作するか、自分の班及び他の班の発表を評価し、自分の意見をまとめる。	【思考・判断・表現】 ・児童文化財の子どもへの影響を考え、意見をまとめることができる。 〈評価方法〉 ◇発表内容	

※1 質問票→保育所実習の際に子どもの様子を簡単に記入するプリントを用いる。質問内容は、見学後の授業で活用できるよう、「キャラクター」、「色」、「動物」、「将来になりたい仕事」等を時間内に3人程度に聞いてくるものである。

【表3 観点別学習状況の評価を生かした考查問題例】※配点50点	
問1 【関心・意欲・態度】を評価する問題です。 2点 (1) 最近ニュースや記事で取り上げられている子どもに関する話題のうち、あなたにとって気になる事柄を1つ答えなさい。 【思考・判断・表現】を評価する問題です。 10点 (2) 1で答えた事柄について、理由を答えなさい。	問1(1)の評価例 A:両親の育児放棄が原因と考えられる死亡事件 C:子どもは苦手なので、思いつかなかった。 【Cへの手立て】 幼い子だけでなく18歳未満までの子どもを対象として考えるよう促し、子どもに対する課題に関心をもたせる。
問2 【思考・判断・表現】を評価する問題です。 各10点 1 子どもが地域で健やかに成長していくためには、親や家族だけでなく地域や社会等の協力や支援が必要です。次のような場合、地域のどのような声かけや支援が必要であるか答えなさい。 ①1年前に引っ越しをしてきた家族がいます。半年前に子どもが生まれたようですが、母親は育児に苦戦しているようです。父親である夫は仕事が多忙のため相談できず、引っ越しから間もないため、近くに頼れる友人もいないと相談されました。 ②近所に汚れた衣服を着て食事を与えられていない子どもがいます。1週間前には猛吹雪の中、外に長時間出されている姿を見かけました。子どもの泣き声が常に聞こえ、小さな子どもを残して両親がいつも外出し、食事や世話を十分にしていないように感じます。	問1(2)の評価例 A:言うことを聞かないからと育児放棄する気持ちが理解できず、悲しい気持ちになりました。育児放棄を隠すことで、事態の悪化にもつながるため、育児に困った時に気軽に相談できる施設があることを教えてあげたいと思いました。 C:かわいそうだと思う。 【Cへの手立て】 学習を振り返り、提供が可能な情報や、原因となる要素を考え、どうすれば防げたか具体的に考えるよう促し、理由をまとめるために必要な材料や考え方に気付かせる。
問3 【技能】を評価する問題です。 10点 正方形の白紙を使用して鳥、動物、植物のうち1つを折りなさい。完成後は、作品の裏に記名し、解答用紙にのり付けしなさい。	
問4 【知識・理解】を評価する問題です。 各2点 1 次の問題のうち正しいものには○を、誤っているものには正しい答えを書きなさい。 ①母子健康手帳は、20歳にならないともらえない。 ②母子健康手帳は日本人でも外国籍であってももらえる。 ③出生届は、子どもが生まれる前に提出しなくてはならない。 ④乳児は、ミルクを飲ませたら満足して眠るため、そのまま静かに寝かせるとよい。	

Topic

消費者教育の推進について

選挙年齢と成年年齢

- ◆ 国民の一人一人が自立した消費者として豊かな消費生活を営む上で、消費者教育は重要である。
- ◆ 「消費者基本法」及び「消費者基本計画」において、国として消費者教育を充実するため、必要な施策を講ずる必要がある。
- ◆ 東日本大震災でも、買い占め等の消費行動や食品の風評被害等が発生しており、消費者教育の充実が急務の課題である。
- ◆ 平成24年8月に、「消費者教育の推進に関する法律」が成立し、これに基づき、「消費者教育の推進に関する基本的な方針」が、平成25年6月に閣議決定され、国全体として消費者教育施策の推進を図ることとしている。

【消費者基本法】（平成16年6月2日改正）

- 第17条 国は…学校、地域、家庭、職域その他の様々な場を通じて消費生活に関する教育を充実する等必要な施策を講ずるものとする。

【消費者基本計画】（平成27年3月閣議決定）

- 選挙権年齢の18歳への引下げや、成年年齢の引下げが議論されていることを踏まえ、高等学校段階までに、契約に関する基本的な考え方や契約に伴う責任、消費者市民社会の形成に参画することの重要性の理解と、社会において一消費者として主体的に判断し、責任を持って行動できるような能力を育むための取組を推進する。

* 今後、家庭科として特に必要な取組 *

満18歳をもって「大人」として扱おうとする議論がなされていることを踏まえ、国家及び社会の責任ある形成者となるための教養と行動規範や、主体的に社会に参画し自立して社会生活を営むために必要な力を、実践的に身に付けるための新たな科目等の在り方について改善を図る。

18歳の責任について		
法律が変わり、みなさんは来年18歳の誕生日を迎えたら、大人として扱われることになります。そこで、18歳が大人として認められることで何が変わるのか、調べて見ましょう。		
可能になること	具体的な内容	興味
選挙に行ける	・18歳の誕生日以降に選挙があった場合、自分の意思で投票できる。	無
ギャンブルができる	・競馬やパチンコなどができる。	無
親の同意がなくても結婚できる	・18歳になると保証人がいれば親の同意はいらなくなる。	有
クレジットカードを作る	・親に言わなくても、お金の持ち合わせがないときには自分のカードで支払いができる。	有

- 選挙年齢の引下げに伴う「契約」等の指導がより重要になります。

- 成年年齢の引下げを視野に入れた取組が必要になってきます。



【消費者教育の推進に関する法律】（平成24年8月成立、12月施行）

【消費者教育の推進に関する基本的な方針】（平成25年6月閣議決定）

- 学校教育において、新学習指導要領の趣旨の徹底を図り、各教科において充実した消費者教育が行われるよう努めるとともに、優れた教材の開発や教職員の指導力向上、消費生活や消費者教育について専門的知識を有する外部人材の活用、消費生活センターなどの関係機関との連携の促進などの取組を推進する。